

「アートアーカイヴ」とは、アーティストの制作活動のなかで生み出された各種資料(スケッチ、下絵、原稿、ノート、書類、蔵書、写真、収集品など様々)の集合体のことです。AACは、多摩美術大学に収集・蓄積されてきたアートアーカイヴを総合的に保存・整理・活用していくための研究教育拠点として、2018年に設立されました。

多摩美ゆかりの作家、研究者たちはどのように学び、考え、発表してきたのでしょうか。彼らの活動から生まれた数々の貴重な資料を、生きた教材として学生の皆さんに利用していただくため、ここでアーカイヴを構築し、公開しています。ここにしかない資料を、授業での利用、個人としての閲覧や研究にぜひお役立てください。

AACの活動や調査・研究成果は、年報／紀要『軌跡』の発行、シンポジウムの開催、資料展の開催などを通して、学内だけでなく国内外にも発信しています。

資料閲覧申込方法はAACウェブサイトをご覧ください。資料や閲覧についての相談も随時受付けています。皆さんのご利用をお待ちしています。

多摩美術大学
アートアーカイヴセンター
所蔵資料展

7月20日

三上晴子 没後10周年

三上晴子アーカイヴ | 活動年表資料展

資料公開状況(2025年6月現在)

AACでは、現在、18の資料体を所蔵し、公開に向けて整理を精力的に進めています。資料体の詳細はAACウェブサイトをご覧ください。

公開	資料体	概要	概数
●	秋山邦晴資料	スクラップブック／印刷物／蔵書／書簡／写真／研究ファイルほか	14,480
▲	安斉重男フォトアーカイヴ	写真／コンタクトプリントスキャン／作品掲載書籍／絵画作品ほか	2,300
▲	LGTVガラススタディ アーカイヴ	《大ガラス東京ヴァージョン》ガラススタディ／記録写真／制作資料ほか	1,000
●	大野美代子アーカイヴ	写真／検討書／スケッチブック／図面ほか	280
●	勝見勝アーカイヴ	世界のグラフィックデザイン作品／書類／博覧会・オリンピック資料ほか	6,000
●	加山又造アーカイヴ	下絵／デッサン／版画原画・試し刷りほか	7,000
●	北国克衛文庫	詩集／同人誌／原稿／写真作品ほか	870
▲	佐藤晃一アーカイヴ	ポスター／装丁本／写真／幼少期作品ほか	2,000
●	瀧口修造文庫	書籍／書類／スケッチブックほか	10,000
●	東野芳明資料	蔵書／印刷物／マルセル・デュシャン研究資料ほか	1,900
●	三上晴子アーカイヴ	作品／画像データ／スケッチ／蔵書ほか	7,600
●	もの派アーカイヴ	もの派関連画像データほか	20,000
●	文様アーカイヴ	アジアのテキスタイル／写真／スライド／調査資料ほか	200
●	山名文夫アーカイヴ	装丁本／リーフレット表紙／ポスター／原画ほか	120
▲	横山操資料	画材／文献資料／写真／映像ほか	300
●	和田誠アーカイヴ	幼少期から没年までの全作品と資料	50,000
▲	サイウマコトポスターコレクション	ポスター／校正刷り	180
●	竹尾ポスターコレクション(寄託)	20世紀の歴史的な名作ポスター	3,200
▲	DNPポスターコレクション	田中一光／永井一正／福田繁雄の名作ポスター	1,800

●公開中 ●応相談で公開 ▲未公開(公開準備中、学内のみ公開)



多摩美術大学
アートアーカイヴセンター
(AAC)
〒192-0394 東京都八王子市鍵水2-17-23
多摩美術大学 八王子キャンパス アートテーク4F
aac@tamabi.ac.jp 042-679-5727
https://aac.tamabi.ac.jp

X / Instagram: @tamabi_aac

Web



X



Instagram



多摩美術大学
アートアーカイヴセンター
所蔵資料展

7月20日

三上晴子
没後10周年

The 7th AAC Collection Exhibition
Chronology of Activities Exhibition

会期 2025年6月23日(月)——7月20日(日)

時間 午前10時——午後5時(7月19日・20日は午後4時まで) | 休場 日曜日(7月20日[日]を除く)

会場 アートアーカイヴセンター・ギャラリー(多摩美術大学八王子キャンパス アートテーク2F) | 入場無料

主催 多摩美術大学アートアーカイヴセンター | 協賛 三上晴子アーカイヴ研究(久保田晃弘・石山星垂良・堀口淳史)

Seiko Mikami Archive: Chronology of Activities Exhibition

[Dates] Monday, June 23 – Sunday, July 20, 2025 [Closed] Sundays (except July 20)
[Hours] 10:00 - 17:00 (until 16:00 on July 19 and 20)
[Venue] Art Archives Center Gallery | Admission free

Organized by: Tama Art University Art Archives Center
Supervised by: Seiko Mikami Archive Research (久保田晃弘・石山星垂良・堀口淳史)

三上晴子アーカイヴ 活動年表資料展

アー

JAPAN |

ヒロシマ以後——現代美術からのメッセージ

アートラボ第5回企画展 「Molecular Clinic [モレキュラー クリニック] 1.0 on the Internet」

「NITインターコミュニケーション95 「on the Web —ネットワークの中のミュージアム—」

DEAF95 WORLD WIDE WEB

JAPAN | DAG (JAPAN TODAY、今日の日本)

DEAF96

LIFE/ART/TECHNOLOGY —生物/いのち/ART—

ICC オープニングイベント シンポジウム 「来たるべきミュージアムに向けて」

ICCコレクション 第一期

Machine Aesthetics

VIA98

EXIT

ICCコレクション 第二期

Cycle: "Singular Electrics"

多摩美術大学
アートアーカイヴセンター
所蔵資料展 7

三上晴子
没後10周年

三上晴子アーカイヴ活動年表資料展

The 7th AAC Collection Exhibition
Seiko Mikami Archive: Chronology of Activities Exhibition

会期 2025年6月23日[月]——7月20日[日]

開館 午前10時——午後5時(7月19日・20日は午後6時まで) | 休館 日曜日(7月20日[日])を除く

会場 アートアーカイヴセンターギャラリー(多摩美術大学八王子キャンパス(アートセンター2)) | 入場無料

主催 多摩美術大学アートアーカイヴセンター

協賛 三上晴子アーカイヴ研究(公田田典弘、石山直貴、堀口淳史)

「あいさつ」展覧会について

公開作業日
@アートアーカイヴ
センターギャラリー

- 6月26日[木]
12:10~13:00

- 7月3日[木]
12:10~13:00

- 7月10日[木]
12:10~13:00

多摩美術大学研究ポータル
<https://mn.tamabi.ac.jp/>



多摩美術大学研究ポータル(BETA)公開に際して
<https://mn.tamabi.ac.jp/2022/202.html>



多摩美術大学アートアーカイヴセンター(AAC)は、所蔵資料展の第7弾として「三上晴子アーカイヴ 活動年表資料展」を開催いたします。本展は、2015年に惜しまれつつ急逝したアーティスト、三上晴子(1961-2015)の活動年表の制作にあたって整理された、貴重な資料群を公開するものです。三上はインスタレーション、インタラクション、ネットアートなど、多岐にわたるメディア表現を自在に横断し、国内外で先駆的な創作活動を展開してきました。本展では、展覧会のフライヤー、ポスター、カタログなどの資料を活動年表と紐付けて紹介することで、三上がいかに革新的な表現手法を駆使し、時代を先取りする作品群を生み出してきたかを示すと同時に、三上の創作に通底する美意識を探ります。また、これらの資料を通して、三上の鋭敏な感覚や表現思想の変遷のみならず、多摩美術大学におけるメディアアート教育とのつながりや、活動の背景にある時代の動きを読み取ることができます。会期中には、関連イベントとして、今後予定しているアーカイヴの資料についてまとめたガイドブック作成に向けての資料の把握・整理作業の一部を公開します。三上の没後10年となる2025年に開催される本展が、三上の諸活動の流れを新たな視点で掘り下げ、その創作の核心に触れる機会となれば幸いです。



右:「アート」が第6回企画展「Molecular Informatics」レクイエム・イン・メタリック・「視線のモルフロジー」告知ハガキ(1991年) 右下:「三上晴子情報 滅ビノ新造型」鉄ノ立体3部作「告知ハガキ(1991)」を三上晴子新作インスタレーション展「Desire of Codes | 欲望のコード」縦面赤ヴァージョン・センター(2004年)

三上晴子と三上晴子アーカイヴについて

三上晴子活動年表とは

三上晴子は、日本を代表するアーティストとして、知覚とテクノロジーの相互作用を軸とする『知覚の美術館』の構築を目指した、多彩な芸術表現を展開しました。1980年代より「情報社会と身体」をテーマに、廃材を用いたジャンク・スカulptチャーやパフォーマンスを制作し始め、1985年に廃墟化した都市を表現した個展《滅ビノ新造型》で注目を集めました。1990年代にはニューヨークを拠点に、ベル研究所での制作研究と並行して、バイオロジーと情報技術を融合させた「Bio-Informatics」概念を提唱し、メディア横断型の作品を国内外で精力的に発表しました。1990年に発表した《Pulse Beats》を皮切りに、観客の知覚や身体性を媒介としたインタラクティブ・アート作品を数多く手掛け、インターネット黎明期からネットを重要な表現媒体として取り入れました。2000年以降、視覚や聴覚、触覚や重力といった多様な知覚をテーマとした大規模な作品《gravicells —— 重力と抵抗》(市川創太との共作)や《欲望のコード》などを次々と制作、発表し、世界各地で巡回展示されました。並行して多摩美術大学では情報デザイン学科教員を務め、後進の育成にも尽力しました。「三上晴子アーカイヴ」は、生前の作品に関連する資料や文献、活動記録などを包括的に収集、整理し、その活動の全容を把握、維持、保管することを目的に、2017年に立ち上げられました。2019年には、アートテークギャラリーで「三上晴子 Eye-Tracking Informatics Version 1.1 —— YCAMとの共同研究成果展」を開催し、ヴァージョンアップを繰り返すインタラクティブ・メディア・インスタレーション作品におけるアーカイヴの意味や方法論を議論するなど、AACが管理する本アーカイヴは、芸術研究や教育における貴重なリソースとなっています。

三上晴子活動年表は、アーティスト、そして多摩美術大学の教員としての三上のさまざまな活動に関する情報を収集し、その情報を一覧できるように整理したものです。年表データは、『SEIKO MIKAMI: 三上晴子 記録と記憶』(馬定延／渡邊朋也編著 NTT出版 2019)に掲載された「三上晴子 略年譜」を出発点に、山口情報芸術センター[YCAM]のサイト、NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]のサイト、そして多摩美術大学情報デザイン学科に残された本人自身によるプロフィールサイトの情報を統合しました。その上で、三上に関連するオンラインで公開されている情報を追加し、さらに今回の展示に向けて、AACに残された資料を調査・整理しました。本年表は、多摩美術大学内のさまざまな研究資料をデータベース化し、それらを多角的に活用するための知と創造のネットワークの基盤として構築された「多摩美術大学研究ポータル」のバックエンドである TAUArtDB の上に構築されています。年表制作の目的のひとつは、三上に関する広範な調査研究を継続的に行っていくためのプラットフォームを構築することですが、同時に収集した情報をさまざまな視点でダイナミックに時系列表示することができるこの年表を、将来的には三上晴子アーカイヴの入り口、つまり「インターフェイス」に発展させていく予定です。

三上晴子活動年表

https://aac.tamabi.ac.jp/seiko_mikami_timelines.html

